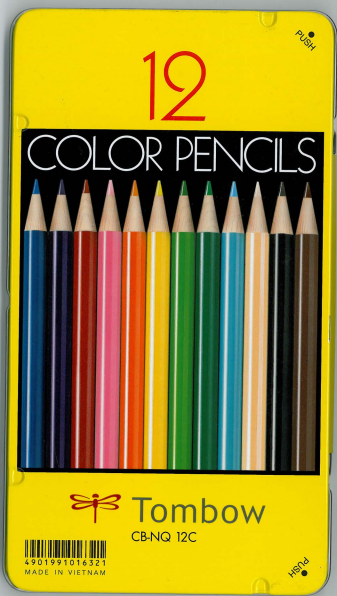




書遺之妻  
知るる生を沙波に受け無  
常無に到りては露即いかな  
る道の草はか消えぬ 愚心難き  
うねかたの浮世に 諸所力中に  
安心起謬を求め身心に験し  
心得るもれ總へ諦むるの自  
得なり 肝を銘どるべし



書道之要

知らず生を波波に受け無  
常無に到りては露亦いふな  
ち道草にか消えぬ過か難き  
うにかたふ深や、諸行の中に  
安心起證を求め身心に験し  
て得るもの總へ諦むむの自  
得なり肝に銘じておめ花  
陰も虚しく度々べからず徒ら  
に百歳を生けりむは恨らむべし日  
月なり空むむべし形骸なり人身  
なり生を波波に預けは設い



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

善人を生ずる波に顔は設け  
薄福なり其形陋なり地にも  
畜生に墮たり無智と雖  
ても尚優なり我が運命困  
難なりも地獄に墮たりより  
幸なり當に知るべし一紙も  
諸行の理に効い錯りし邪見に  
墮ち惡道に踏入りべからず今  
生に我身の無常の心は日月ど  
ろ百を越ゆは今の我々が宿業  
なり佛道値うこと希なるを  
曰ふは誠心を専らに懺悔なきが  
故なり佛道に値うは己が心な  
り心に疑あるは佛道に値うは

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

故なり佛道に値うは己が心な  
り心に疑あるば佛道に値うは  
難く心に懺悔あるば自ら我を  
極い證入せん無疑の心に精  
進するときは詭い過去に惡業  
多く罪障多く重なる因縁あ  
りとも佛の本願深きが故に  
業累を解説する諸因障り  
無かりむなり信心浅く  
とも疑ふべからず無智愚心とん  
の輩と雖も佛の攝取に障  
りあることなかりきなりなり  
佛の慈念する者は心貪り衆  
生を救ふ為のものなり





の輩、雖も佛の撰取に障

りあるまじきなり。孝いなる武

佛の慈念する本日はに貪り衆

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

生滅の法なり生滅を滅し

輪廻す佛の本願に往生を  
要すに願ふは天界悉く西方  
に往生するが故なり當に  
悟るべし西方は阿彌陀の  
淨土とすより道交するは  
迷惑おたき故なり西方往  
生なる本願は念佛なり唯  
念佛なり此の他に多く知覺  
を廻さば二尊の愍みに外れ本  
願にも外れし外道の刹多に  
迷ひ佛證を奪ねんとするも  
蹤跡を失ひ本願を固く離  
れん過ふこと難し何に況ん



佛我々常住し生死の輪廻  
経束の到りて生死の中  
善惡最勝の受難を以て人身  
の生るまじきなり。めん生命万  
滅の信念を究盡し三寶を  
故に佛の本戒を護りて犯さ  
ず本願に歸依し奉るは念  
佛の他に無上の方便なり  
金花が以上を衆の爲に遺し  
今上へ木乃伊の如き枯身  
を深奥の東日流に弥陀の  
來迎を信じて永眠を待  
はむなり

建保五年三月十日

滅の信念を究竟し三寶を  
故の佛の本戒を護りて犯さ  
ず本願に歸依し奉るは念  
佛の他に無上の方便なり  
金花が以上を衆の爲に遺し  
今上木乃伊の如き枯身  
を深奥の東日流に弥陀の  
來迎を待て永眠を待  
はびなり

建保五年三月十日

金花のての國體